

第四編 教育・文化

第一章 教育委員会

第一節 教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第三条では、教育委員会の委員数を五人と定めており、美川村では、この法律が施行された昭和三十一年から、法定どおり五人の委員が任命されている。

委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、村長が議会の同意を得て任命することとなっている。

教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に示されたその職務権限により、地方公共団体が処理する事務、法律・政令に基づき教育の一切を扱っている。

事業

- 一 各学校のトイレの水洗化審議推進
- 一 教員住宅建設審議推進
- 一 仕七川小学校の管理棟・体育館建築審議推進
- 一 特殊学級の設置審議推進
- 一 美川中学校体育館の大規模改修等審議推進
- 一 保育園・幼稚園のシャワー室、トイレ改修、コンビネーション遊具等整備審議推進
- 一 各学校のパソコンネットワーク設備整備審議推進
- 一 小学校統合問題審議推進
- 一 統合美川小学校校舎・プール等の新築整備審議推進
- 一 三歳児保育の実施審議推進

教育委員

氏名	期	間	備考
光田 有	二・一〇	一	五 委員長
大原 忠明	三・一〇	一	六 委員長
畝 繁雄	四・一〇	一	七 委員長
西田 孝一	四・一〇	一	八 委員長
仲川 達郎	五・一〇	一	九 委員長
光田 有	六・一〇	一	九 委員長
堀尾 忍	七・三	一〇	九 委員長
大原 忠明	七・一〇	一	九 委員長
西田 孝一	八・一〇	一	九 委員長
堀尾 忍	八・一〇	一	九 委員長
仲川 達郎	九・一〇	一	九 委員長
西口 武志	一〇・一〇	一	九 委員長
田本 豊弘	一〇・一〇	一	九 委員長
大原 忠明	一一・一〇	一	九 委員長
堀尾 忍	一二・一〇	一	九 委員長
西口 武志	一二・一〇	六	九 委員長
仲川 達郎	一三・一〇	一	九 委員長
田本 豊弘	一四・一〇	一	九 委員長
大原 忠明	一五・一〇	一	九 委員長

第二章 学校教育

第一節 小学校統合

昭和三〇年の美川村誕生以来、六校の小学校を存置してきたが、平成五年度には、百十数年の歴史を持つ東川小学校が、仕七川小学校に合併して五校となった。

過疎化による児童数の減少は著しく、美川村誕生時の、児童数一、三六八名が一三年度は七四名となり、特に、全校児童が一名となった二籠小学校と、二名の黒藤川小学校は休校し、美川南小学校へ通学した。このような状況の中で、平成一四年度に、隣接する二籠小学校、黒藤川小学校、美川南小学校、美川西小学校の四校を廃止して一校に統合し、児童の教育を最優先に考えて、教育環境の整備、施設設備を充実させ、適切で質の高い教育の実現を図るため、美川小学校を設置し、村内の小学校は二校となった。

第二節 学校施設

美川村立の学校は、過疎・少子化により、平成五年度から小学校が五校、中学校が二校、平成一四年度からは、小学校が二校、中学校が一校となり、小学校においては、二校ともに複式学級をかかえ、小規模校としての学校運営であるが、それぞれ充実した施設設備の整備が行われている。

平成六年度以降における施設の整備状況は、次表のとおりである。

学校施設整備状況

年度	内 容
六	<ul style="list-style-type: none"> ・仕七川小学校便所改築 木造平屋建二八㎡ (約六二八万円) ・黒藤川小学校へき地教員宿舍新築 (約八九五万円) ・美川西小学校教員住宅新築 (約九五八万円) ・美川南小学校便所改築 (約一二七万円)
七	<ul style="list-style-type: none"> ・黒藤川小学校給食受室改築 (約二八〇万円) ・美川西小学校体育館屋根及び壁塗装替 (約八七二万円)
八	<ul style="list-style-type: none"> ・仕七川小学校屋内運動場・管理棟増改築 屋内運動場・鉄筋コンクリート造六〇七㎡ 管理棟・鉄筋コンクリート造五二七㎡ (約二億六、二五四万円) ・黒藤川、美川南、美川西小学校体育館天井灯昇降装置取付 (約二五四万円) ・美川中学校体育館鉄骨補強工事 (約四五二万円) ・美川中学校体育館天井灯昇降装置取付 (約九八万円)

九	<ul style="list-style-type: none"> ・美川中学校プール揚水ポンプ据え替え (約六〇万円) ・美川西小学校校長住宅新築 木造平屋建六五㎡ (約一,一三〇万円) ・黒藤川小学校グラウンド照明改修 (約六三万円) ・美川西小学校便所改築 木造平屋建二七㎡ (約八二九万円) ・美川南小学校体育館雨樋取付 (約五三万円) ・美川中学校プール塗装替 (約三五七万円) ・美川中学校体育館暗幕取付 (約一〇三万円)
一〇	<ul style="list-style-type: none"> ・美川中学校武道館便所新築及び体育館床等改修 便所木造三二㎡、体育館フローリング六〇八㎡ (約三,一九三万円)
一一	<ul style="list-style-type: none"> ・仕七川小学校校舎アルミサッシ取付 (約一五八万円)
一二	<ul style="list-style-type: none"> ・美川小学校敷地造成工事 敷地二,七四八㎡、積ブロック六八五㎡、側溝一四七m (約三,九三三万円)
一三	<ul style="list-style-type: none"> ・美川南小学校体育館便所改修 合併浄化槽五人槽 (約二五二万円) ・仕七川小学校屋根瓦葺替及び壁塗装替

一四	<ul style="list-style-type: none"> カラーベストコロニアル葺六三三五㎡ (約八五四万円) ・美川小学校校舎建築 木造二階建一,五〇六㎡ (約四億一,八七四万円) ・美川小学校プール新築 メインプール二五×一六m、サブプール一〇×五m (約一億七五四万円) ・美川小学校駐車場整備等屋外付帯工事 駐車場、校門囲障、舗床、グラウンド照明、植栽等 (約七,七〇三万円) ・美川小学校体育館改修 床五〇〇㎡研磨塗装、内部天井・壁塗装約一,三二九㎡ (約一,三二八万円)
一五	<ul style="list-style-type: none"> 仕七川小学校校舎床改修 桧縁甲板張、下地コンパネ張、床ポリウレタン樹脂塗装七九五㎡、屋外スロープ工事 (約一,二六〇万円) ・美川中学校校内放送設備改修 AV調整卓及び放送設備一式 (約五一五万円)

第三節 学校給食センター

昭和六一年四月、美川村学校給食センターが新設され、ここで調理された給食は、村内小・中学校へ配送される。小学校は、児童数の減少で村内二校に統合し、平成一四年度からは、美川中学校、仕七川小学校、美川小学校の三校となった。

平成八年度に、国内各地で病原菌O一五七が原因で食中毒が発生し、以来衛生面にはいっそう気配りが必要とされてきた。調理場内、調理器具等、安全に調理ができるよう見直し、整備をして安全な給食を提供している。



美川村学校給食センター

一 施設・設備充実の経緯

年度	内容
平成六	給食業務を「㈱みかわ」に一部委託、温水ボイラー・冷凍冷蔵庫購入
七	ホワイトボード・ガス購入、シャワー室設置
八	ガス回転釜・冷凍庫・冷蔵庫・ガス自動炊飯器・消毒保管庫・殺菌庫・手指消毒機購入、下処理場設置工事・灯油タンク据え替え工事
九	ミニキャブ・マイコンフライヤー・手指消毒スタンド購入
一〇	スチームコンベクション・消毒保管庫・ミジン切り機・テーブルコンロ・書庫購入
一一	調理場スポットエアコン取り付け、移動台購入
一二	調理場内排水路修理、給食用食器買い替え
一三	玄関前ひさし増設
一四	合併浄化そう修理、セレクト給食開始
一五	移動流し台・幼児用食器購入

二 給食数・給食費

年度	給食数(食)	給食費(円)		
平成七	二九七	(一食) 二七〇		
八	二八七	二四〇	二三五	二七〇
九	二六六	二四〇	二三五	二七〇
一〇	二五六	二四〇	二三五	二七〇
一一	二二九	二五〇	二四五	二八〇
年度	給食数(食)	給食費(円)		
一二	二二六	二五〇	二五五	三〇〇
一三	二〇二	二五〇	二五五	三〇〇
一四	一八四	二五〇	二五五	三〇〇
一五	一八八	二五〇	二五五	三〇〇
一六	一八七	二五〇	二五五	三〇〇

三 給食の内容

学校給食で、地場産物の活用が多くなり、美川村学校給食センターでも、村内、郡内で生産されたものを活用している。
 地場産物を生かした献立の実施は、児童生徒に給食を通じて、地域でどのようなものが生産されているか、郷土の産物への関心を持たせ



嗜好品について、保護者と話し合う



食事の大切さを知らせる

今日の給食は、美川村の産物を使った献立です。

献立名は
 大根めし
 牛乳
 あまごの塩焼き
 白菜のおひたし
 にゅうめん
 かちんこドーナツ
 です。



る一助ともなっている。
 このほか、美川の産物を使い、じゃがたらくん、肉づめピーマン、おこわごはん、おやき等も献立に入れる。また、児童、生徒たちのリクエストメニューや、セレクト給食を入れて、楽しめる給食に心がけている。
 また、給食を作って学校(園)に配送するだけでなく、学校と一体になり、児童、生徒たちに、生活の大切さを理解させるよう、栄養職員が学校に向いて、いっしょに給食を食べたり、話し合ったりする。

第四節 各学校の沿革

一 仕七川小学校



仕七川小学校

明治九年創設以来、一一七年の歴史を持つ東川小学校が、平成五年四月一日、仕七川小学校に統合したが、それでも児童数は四〇名余りで、複式学級を持っており、まだまだ児童数の減少が続いている。

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
六	南校舎水洗トイレ竣工
七	校門前信号機設置
八	管理棟・体育館・倉庫落成
九	ぶらんこ設置
	運動会用放送設備等購入
一〇	体育館ステージの大スクリーン設置
一一	液晶プロジェクター購入
	運動場ポール時計設置
一二	南校舎窓サッシ工事完了
一三	本館裏石垣修復工事完了
	南校舎屋根葺き替え工事完了
一四	グラウンド照明設備工事完了
一五	南校舎床改修(張替え)工事完了

(二) 主な行事

年度	内 容
六	郡教科研(特活・複式研)会場校
九	郡教科研(図画工作科)会場校
一〇	愛媛県教育研究会松山管内大会第一七群会場校(図画工作科)
一一	文部省指定へき地教育研究指定校並びに愛媛県へき地教育研究発

一四	表大会会場校 郡総合防災訓練会場 子ども放課後・週末活動等支援事業・地域活性化モデル事業（通学合宿）実施 上浮穴郡教科等（複式）研究会会場校として発表
----	--

(三) 表彰関係

年度	内 容
六	第二五回全国学生俳句大会一〇位
七	第二六回全国学生俳句大会四位
八	第二七回全国学生俳句大会一〇位
一一	第四六回青少年読書感想文コンクールにおいて、学校賞と全国学校図書館協議会長賞を受賞
一三	第三二回全国学生俳句大会優勝

(四) 特記事項

○平成八年度、特殊学級「やまびこ学級」の開設
 ○学校及び地域住民の長年の念願であった体育館が、村当局の英断と地域住民の協力のもとに、管理棟・運動用具倉庫と共に、平成九年三月に落成した。それ以来、学校行事や体育活動にフルに活用され、社会体育の発展にも大きく貢献している。

二 黒藤川小学校



黒藤川小学校

平成六年以降における児童の推移を見ると、急激な過疎化現象が現れた。平成一二～一三年度は、二～三名の児童となったため、隣接の美川南小学校へ、村の交通費負担で通学した。さらに、平成一四年四月一日には、二籠小学校、美川南小学校、美川西小学校と共に、新設の美川小学校に統合し閉校となった。

児童数の推移

年度	児童数	年度	児童数
八	一七名	一一	三名
七	一七名	一〇	五名
六	一七名	九	九名
		一二	三名
		一三	三名
		一四	一名

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
六	会食ルーム前の手洗い場設置 校長住宅新築
七	給食受室の改築 二階廊下窓サッシ取付
八	洋式水洗トイレ設置
九	運動場国旗掲揚塔、体育館大時計設置

(二) 主な行事

年度	内 容
六	上教研家庭科部会研究会
七	同和教育指導訪問
八	郡地教委協議会・校長会合同研修会
九	上教研国語科部会研究会
一三	閉校記念誌「やまびこ」発行 閉校式典

(三) 特記事項

平成一四年三月三日をもって廃校となった校舎は、昭和二十七年建築の木造二階建て校舎で、老朽化が激しく、一部に雨漏りも見られるようになり、校舎の有効利用も図れないので、平成一四年度に取り壊して更地とした。

体育館、グラウンドを含めた跡地は、平成一四年四月一日から、公民館施設として位置付け、地域住民の活動拠点として活用している。

文 碑

黒藤川小学校は、明治八年、中津村立宮成校として創設され、昭和三〇年の町村合併により美川村立黒藤川小学校となり、開校以来一二七年の歴史と伝統を誇る、村内有数の小学校である。

地域の強い連帯意識に支えられながら、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、一、六九三名の心身ともに健全な人材を輩出してきた。

全盛期には、二〇〇名を超える児童を擁し、へき地教育、学社一体教育の先進校として、他の範となり、昭和二八年度には、優良PTA県表彰を受賞するなど、その実績は高く評価された。

昭和三五年度の二〇七名をピークとして、児童数は激減し、平成一二年度には、在籍児童一名となり、休校の止むなきに至った。

児童の教育効果等を考慮し、惜別の念耐え難くも、美川小学校への統合を英断した。

ここに、その光輝ある歴史と伝統を讃え、記念碑を建立する。

平成一四年三月吉日



記念碑の写真

文 碑

二筈小学校は、明治四四年に、宮成尋常小学校二筈分教場として創設、明治四四年に、沢渡地区に開設されていた分教場は、昭和四年に二筈小学校の分校となった。(昭二七・三閉鎖、美川南小へ合併)

本校の従来所属は、中津村であったが、昭和三〇年の美川村への合併により、美川村立二筈小学校となり、昭和三二年、現在地に新校舎を建設、開校以来九一年の歴史と伝統を誇る村内有数の小学校である。

一貫した建学精神のもと、地域と一体となり、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、一、一一〇名の心身ともに健全な人材を輩出してきた。

全盛期には、本校のみで一二二名の児童を擁し、へき地教育等の先進校として、昭和四八年には、へき地教育優良校、また、昭和五三年には、PTA優良校として、愛媛県表彰を受けるなど、その実績は高く評価された。

昭和三五年をピークとして、児童数は激減し、平成一三年には、在籍児童一名となり、休校の止むなきに至った。

この期に至り、児童の教育効果等を考慮し、惜別の念耐え難くも、平成一四年四月一日、美川小学校への統合を英断した。

ここに、その光輝ある歴史と伝統を讃え、記念碑を建立する。

平成一四年九月吉日

四 美川西小学校



美川西小学校

へき地指定を受けていない本校においても、児童は減少して、平成一一年から二〇名台に至り、複式学級を解消することができなくなってきた。平成一二年から、PTAを中心として、小学校統合の気運が高まり、平成一四年四月一日、黒藤川小学校、二籠小学校、美川南小学校、美川西小学校の四校が統合し、美川西小学校の地に美川小学校として誕生した。

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
六	音楽室のリノリウム張り 運動場防球ネット工事完了
七	教員住宅新築 体育館外壁補修工事完了 国旗・村旗掲揚ポール取替え
八	体育館照明昇降装置設置
九	水洗トイレ竣工 にわとり小屋修理
一〇	校長住宅新築
一一	体育館ステージ幕取替え 運動会入場門製作完成（PTA）

(二) 主な行事

年度	内 容
六	宿泊スキー体験学習実施(三、六年生宿泊) 郡学校給食研究会開催
七	郡教科等研究会(体育科)開催 国旗・村旗掲揚ポール取替え
八	地区別同和教育研究協議会就学前・小学校分科会会場校
一〇	シーフード実践校指定
一二	郡教科等研究会・家庭科研究会会場校
一三	閉校式典・閉校記念誌「希望」発行

(三) 特記事項

○平成一三年度、特殊学級「ひまわり学級」の開設
○平成一三年度末をもって閉校となり、この地に平成一四年度に新校舎を建築して、統合美川小学校に生まれ変わる。

文 碑

美川西小学校は、明治八年に有枝の本村に剛名学校、大川の宗泉寺を仮校舎として大川学校、上黒岩に上黒岩分校が創設され、昭和二年四月五日、弘形村梨ノ下(現在地)に新築落成し、実質統合されて以来、一、二七年の歴史と伝統を誇る、村内有数の小学校である。

一貫した郷土愛に満ちた協同意識と、信頼関係に裏付けされた教育的風土のもと、知・徳・体と心身共に調和のとれた、地域に根ざした教育を實踐し、その間、二、三〇〇名を超える有能な人材を輩出してきた。

全盛期には、三〇〇名を超える児童を擁し、へき地教育の先進校として他校の範となり、平成一三年度には、愛媛県へき地教育優良学校として、愛媛県教育委員会表彰を受賞するなど、その実績が高く評価された。

昭和三四年の児童数三三〇名をピークとして、地域の少子・高齢化の波と共に、児童数は年々減少し、平成一三年度には二三名となった。この期に至り、今後の児童数の推移や教育効果等を考慮し、惜別の念耐え難くも、美川小学校への統合を英断した。

ここに、その光輝ある歴史と伝統を讃え、記念碑を建立する。

平成一四年三月吉日

五 美川南小学校



美川南小学校

本校でも、一時は、二五〇名余りの児童がいたが、校下過疎化に加え、若者の流出により少子化が進み、年々児童数は減少の一途をたどり、誰もが予想もしていなかった現状を目のあたりにして、一人でも多くの子ども達と学ばせたいという思いで、平成一四年四月一日、黒藤川小学校、二箇小学校、美川西小学校と共に四校が、新設の美川小学校に統合した。

美川小学校は、美川西小学校の地に新校舎を建築のため、一四年度に限り、本校を美川小学校として活用した。

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
七	バスケットリング昇降機電動化 放送室設備（校内テレビ放送） 校舎トイレ水洗化
八	体育館照明昇降装置設置 校舎二階廊下外側窓のサッシ化
一二	水道改修工事完了

(二) 主な行事

年度	内 容
八	複式学級学習指導講座会場校 郡複式研究会会場校
一一	郡教科等研究会（音楽科）会場校
一二	閉校記念誌「みなみかぜ」発行
一三	閉校式典

(三) 特記事項

○本校は、平成一四年三月二日をもって廃校となったが、校舎は、昭和三二年建築の木造平屋で、屋根瓦も風化が激しく、校舎の有効活用の目途もないので、平成一四年度をもって取り壊して更地とした。

保育園屋舎と体育館、グラウンドを含めた跡地は、平成一五年四月一日から、公民館施設として位置付け、地域住民の活動拠点として活用している。

文 碑

美川南小学校は、明治一一年四月に、弘形村立日野浦小学校として、光明寺内に創設、昭和一七年に現在地へ移転。昭和三〇年の町村合併により美川南小学校となる。開校以来一三三年の歴史と伝統を誇る、村内有数の小学校である。

一貫した建学精神のもと、地域と一体となり、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、三、〇〇〇余名の心身ともに健全な人材を輩出してきた。

全盛期には、二四〇名の児童を擁し、各種研究の先進校として、他に範を示し、その実績は広く高く評価された。

昭和三八年をピークとして、児童数は激減し、平成一三年度には、二〇名に満たない在籍数となった。

この期に至り、児童の教育効果等を考慮し、惜別の念耐え難くも、美川小学校への統合を英断した。

ここに、その光輝ある歴史と伝統を讃え、記念碑を建立する。

平成一四年三月吉日

六 美川小学校

過疎化の現象による人口の減少及び少子化の影響を受け、村内の園児・児童数もここ数年で急激に減少した。そこで、PTA・地域公民館から、統合の声が持ち上がり、平成一四年四月一日より、二籠・黒藤川・美川西・美川南小学校の四校が統合し、美川小学校として発足した。

統合先とした旧美川西小学校校舎は、著しく老朽化が進んでいたため、児童の安全面が十分とはいえず、また、児童一人一人の個性を伸ばしていく上でも、よりよい学習環境・生活環境を重点的に整備していく必要があった。

これらの各種課題を解消し、近代教育の場としてふさわしい施設を確保するために、旧美川西小学校校舎を取り壊し、跡地に新校舎とプールを建築し、児童の安全面・生活環境の改善のほか、地域活性化の拠点として、大きく貢献するものと期待している。

統合初年度は、新校舎建築のため、統合前の美川南小学校を仮校舎として開校した。

統合校舎の建築にあたっては、円滑な推進と、教育環境の整備充実を図るために、校下のPTA会長、公民館長等が中心となり、大野利一氏を会長に、美川小学校建築協力が組織された。

協力は、校舎の玄関に使用する、磨き丸太用特殊建築用材の調達や、校旗作製のための寄付金集め等にご尽力いただき、校下の方々のご厚志により、立派な校旗・優勝旗等の作製を見た。

美川小学校の校歌及び校章については、募集により、全国各地から、校歌二二点、校章一六点の応募をいただき、選定委員会で慎重審議により、次のとおり決定した。

なお、作曲については、長年美川中学校音楽教諭として活躍いた

いた猪上哲史先生にお願いした。

〔校歌〕

本田 秀雄 滋賀県大津市

〔校章〕

駒井 瞭 大阪府東大阪市

(一) 特記事項

美川西小学校から、特殊学級「やまびこ学級」を引き継いで開設し、新たに、平成一四年度「ひまわり学級」を開設。

校章



美川小学校校章

み(美)川小学校の「み」をモチーフに、村花「茶」の四つの葉で、四校が統合する美川小学校の、明るく元気に学ぶ姿を、子どもたちから大人まで、誰にでも一目見てよくわかり、広く愛され親しまれるようデザイン。

緑は、豊かな緑の大地・こだまするやさしい心・思いやり・仲良し・羽ばたきを、金は、光輝く太陽のもと、広がる夢・希望・未来を表現し、これはまた、二一世紀をリードする美川小学校が、力強く飛躍発展する雄姿を象徴しています。

美川小学校 校歌

作詞 本田 秀雄
作曲 猪上 哲史

1
おおが わみねの やま なみ に

5 9
きほうの ひ かーりあ ふーれます げ

13
んきにみんーな いきいきと

17
たのしくひごとま なーびあう わ

21
れらの みかわ しょう がっ こう

美川小学校校歌

- 一
大川嶺の 山なみに
希望の光り あふれます
元気にみんな いきいきと
楽しく日ごと 学びあう
われらの美川 小学校
- 二
若鮎はねて 澄む水の
面河の流れ はずみます
心を見がき たくましく
からだも共に 鍛えあう
われらの美川 小学校
- 三
緑の大地 吹く風も
六とせの夢を かなでます
手つなぐ笑顔 ほがらかに
あしたをめざし 励みあう
われらの美川 小学校



美川小学校

仕七川小学校

年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	児童数	
七	田中 寛	九	五	男 二六	女 一九
八	山田 眞昭	一〇	六	男 三〇	女 一九
九	〃	一〇	六	男 二八	女 二〇
一〇	〃	一	七	男 二六	女 二二
一一	〃	八	五	男 一九	女 二二
一二	大家 秀雄	九	六	男 一七	女 二二
一三	〃	九	六	男 一六	女 一八
一四	〃	九	六	男 一一	女 一六
一五	土居 庸子	九	六	男 一一	女 一九
一六	〃	九	六	男 一一	女 二〇
				計 三二	計 三二

黒藤川小学校

年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	児童数	
七	渡部 喜代隆	八	四	男 六	女 一一
八	〃	七	四	男 五	女 六
九	大家 秀雄	五	三	男 五	女 四
一〇	〃	五	二	男 三	女 二
一一	〃	四	一	男 二	女 一
一二	休校				
一三	〃				
一四	閉校				
				計 一七	計 一七

二箇小学校

年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	児童数	
七	渡部 大輔	四	二	男 二	女 四
八	〃	四	二	男 二	女 三
九	〃	四	二	男 二	女 一
一〇	大家 秀雄	四	一	男 一	女 一
一一	〃	四	一	男 一	女 一
一二	南條 勝利	四	一	男 一	女 一
一三	休校				
一四	閉校				
				計 二	計 二

美川西小学校

年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	児童数	
七	井手 窪理	一〇	五	男 一五	女 二〇
八	〃	八	五	男 一五	女 一七
九	〃	七	四	男 一六	女 一四
一〇	山本 百合子	八	五	男 一六	女 一四
一一	〃	八	五	男 一五	女 一四
一二	森川 等	七	五	男 一五	女 一二
一三	〃	八	四	男 一四	女 一二
一四	閉校				
				計 三五	計 三二

美川小学校

一六	一五	一四	年度		
〃	大家秀雄	森川等	歴代校長氏名		
一〇	一〇	一〇	職員数		
七	六	六	学級数		
二二	一七	二三	男	児童数	
一九	一七	一八	女		
四〇	三四	四〇	計		

美川南小学校

一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	年度		
閉校	〃	〃	南條勝利	森晴光	〃	白石文子	落合常章	歴代校長氏名		
	九	八	八	八	八	七	八	職員数		
	三	三	三	四	四	三	四	学級数		
二二	一〇	一〇	一一	一四	一二	一二	一二	男	児童数	
五	八	七	一一	一五	一五	一八	女			
一七	一八	一七	二二	二九	二七	三〇	計			

七 美川中学校



美川中学校

年度	内 容
七	視聴覚室空調設備整備
八	体育館鉄骨改修及び天井灯昇降装置取付 プール揚水ポンプ据え替え設置
九	プール塗装替え 体育館腰壁等張替え及び暗幕取付
一〇	武道館便所新築及び体育館床等大規模改修
一一	パソコンネットワーク工事完了
一二	普通教室床改修
一三	柔道畳購入
一四	水洗トイレの洋式化(男女各一カ所) 特殊学級情報教育機器整備 柔道場柔道畳追加購入
一五	校内放送設備改修

(一) 施設・設備の充実状況

昭和六一年度に統合開校した美川中学校であるが、当時一一二名の生徒が、平成一五年度には、四二名となり大幅な減少を示している。村内唯一の中学校ということで、快適な環境の中で勉学に励めるよう、施設設備の整備には意を払っている。

(二) 主な行事

年度	内 容
八	地区別同和教育研究協議会会場校
一一	愛媛県へき地教育研究大会会場校
一四	学校環境緑化事業実施
	平成一三・一四年度文部科学省指定人権教育研究発表大会実施

(三) 表彰関係

年度	内 容
八	上浮穴郡中学校総合体育大会 野球優勝 同 新人大会 バレーボール優勝
九	同 総合大会 卓球・バレーボール優勝 同 新人大会 卓球団体優勝
一〇	同 総合大会 野球・卓球団体優勝 同 新人大会 卓球団体優勝
一一	同 総合大会 卓球団体優勝 同 新人大会 卓球団体優勝
一二	上浮穴郡中学校総合体育大会 卓球団体優勝 同 新人大会 卓球団体優勝
一三	愛媛県PTA連合会表彰

(四) 特記事項

○平成一四年度、特殊学級「たんぼぼ学級」の開設
普通教室が不足のため、家庭科教室を改造して普通教室を確保し、
同学年クラスを近くに置いて授業を行っている。

○部活動においては、開校以来郡内でも活躍してきた伝統ある野球部

であるが、生徒数の減少により一三年度をもって、また、バレーボ
ール女子部も、一五年度をもって廃部となり、新たにバドミントン
部が生まれて活躍を見せている。

○秋季大運動会においても、三ブロック対抗で競技をしてきたが、生
徒数の減少に伴い、平成一五年度から二ブロック対抗で行っている。

美川中学校

年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	生徒数		計
				男	女	
七	大西和章	一三	三	四〇	三三	七三
八	松岡 廣	一三	三	三七	三七	七四
九	中野明彦	一三	三	二七	三七	六四
一〇	竹内純子	一三	三	三五	三九	七四
一一	田窪 徹	一三	三	三二	三五	六七
一二	田窪 徹	一三	三	三〇	三四	六四
一三	田窪 徹	一六	三	二四	三二	五六
一四	田窪 徹	一五	四	二六	二六	五二
一五	田窪 徹	一四	四	二七	二〇	四七
一六	田窪 徹	一四	四	二四	一七	四一

八 美川中学校若竹寮

遠距離生徒・交通手段の困難な生徒のための寄宿舎であるが、生徒数、特に、該当生徒の減少で、平成一一年からは、二〇名の定員のところ、一桁台の入寮生となっている。

入寮生徒数

年度	入寮生徒		寮母
	男	女	
一六	四	一	寮母制廃止
一五	一	二	〃
一四	二	五	〃
一三	二	五	〃
一二	五	二	〃
一一	五	四	〃
一〇	一〇	六	松本伊沙子
九	八	六	〃
八	一	八	〃
七	五	一	〃
六	七	一	中川富士子
		計	

第三章 社会教育

第一節 公民館活動

公民館は、美川村公民館を中心として、仕七川公民館・東川公民館・黒藤川公民館・二籠公民館・美川西公民館・美川南公民館の、それぞれ六地域公民館において、活動が続けられている。

公民館の主な活動は、盆踊り大会・運動会・敬老会・芸能発表会・三世代交流会・奉仕活動・カラオケ大会などの地域コミュニティ活動、ソフトボール・バレーボール・卓球などのスポーツ・レクリエーション活動であり、それぞれの公民館において、地域の特色を生かした活動がなされている。

公民館は、生涯学習の拠点として、これまで活動してきた。しかし、現状では、急速な少子・高齢化社会の進行により、地域が衰退化している昨今、地域社会を維持していく上で、公民館の役割は極めて重要である。こうしたことをふまえ、公民館では、地域住民の生きがいづくりや、連帯意識の向上等に努めることにより、心豊かで活気のある地域づくりを目指している。



上浮穴郡生涯学習推進大会

氏名	仲川達郎
期	三・八・八
間	

美川村公民館長

社会教育主事

氏名	浜田晴幸	期	三・四・一〇	間	一三・三・三一
----	------	---	--------	---	---------

美川村公民館主事

氏名	高岡政明	期	五・四・一〇	間	八・三・三二
	玉井 猛		八・四・一〇		九・三・三二
	福井隆也		九・四・一〇		三・三二
	大南千寿		一三・四・一〇		
	崎山辰徳		一三・四・一〇		

美川村公民館副館長

年度	四〇九	氏名	西口武志
	七		落合常章
	八		渡部喜代隆
	九〇		森 晴光
	一〇		福井廣志
	一一		大家秀雄
	一二		安宅愛子
	一三		南條勝利
	一四		森川 等
	一四		桑村征子
	一五		大家秀雄

地域公民館長及び主事

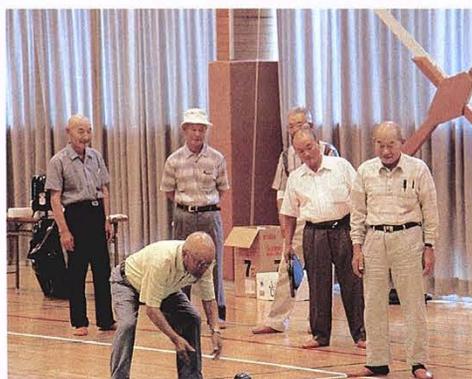
館名	館長		主事	
	年度	氏名	年度	氏名
美川西	九〇	岡田宗人	一〇	下方信夫
	七〇	梶家修	八〇	土居通二
	五〇	松岡香	六〇	梶家和彦
二 籠	一一	天野辰晴	一四	松田一幸
	九〇	表 高 一	一〇	石川正吉
	七〇	吉見春吉	八〇	小倉一夫
	五〇	大野国男	六〇	久保金次郎
黒藤川	一一	阿川正光	一四	田野典孝
	一〇	岩市幸尊	一〇	釣井好春
	八〇	中山正義	八〇	中山忠男
	六〇	堀尾 忍	六〇	玉井 猛
東 川	一五	西口武志	一四	平川勝彦
	一二	篠原 擴	一〇	堀田春和
	九〇	箱岡幸夫	八〇	佐藤計信
	七〇	西田孝一	四〇	中田龍明
仕七川	一三	沖中壽夫	一四	左京 健
	九〇	小椋清隆	一〇	仲川博文
	五〇	福井廣志	一〇	下方公士
	三〇	福井廣志	八〇	小椋周喜
	一〇	桑村 隆	六〇	大堀辰雄

中央より講師を招き開講したが、多くの村民に聴講していただき、健康や、生きがい等についての学習の場となっている。

二 高齢者大学

年々と高齢化が進み、現在では、六五歳以上が占める割合が高くなってきている。昭和四七年から「老人大学」が開設され、昭和五四年から「高齢者大学」に名を改めて開催している。郡内あるいは松山市近郊から講師を招き、人文社会・芸術文化・スポーツ・レクリエーション・趣味等、幅広い分野から講演を受講している。また、三回開催している高齢者大学の二回目については、村内各地を巡回し講演を行っている。内容としては、講師を招いて講演を行ったり、ビデオ鑑賞を行い、その後、軽スポーツを行って交流を深めており、参加された方からは大変好評を得ている。

年間三回全てに参加した受講生には、修了証と記念品を贈っている。



高齢者大学

四 人権・同和教育

同和对策事業特別措置法の制定から、三三年間にわたる同和問題に関わる国の特別対策は、平成一四年三月三十一日をもって終了した。これをうけ、美川村同和教育協議会は、昭和四九年発足以来一九年間、同和問題解決のため、様々な取り組みをしてきたが、平成一五年六月一二日に、その名称を美川村人権教育協議会に変更した。しかし、残された同和問題については、一般対策として継続して取り組むこととなった。

美川村人権教育協議会では、現在の複雑な社会情勢の中、同和問題・女性問題・障害者問題・高齢者問題・子どもの問題など、様々な人権問題があり、特に、差別の巧妙化・陰湿化・劣悪化を懸念し、心理的差別等の解消が重要な課題と考えている。

このような状況の中で「人権のための国連一〇年」に関する行動計画をふまえ「二一世紀は人権の世紀」の実現のため、人権文化の構築を目指し、差別や偏見のない、明るく心豊かな村民の育成のため、人権・同和教育を推進している。

地域公民館校区別人権・同和教育懇談会、社会教育関係団体を対象とした学習会、美川中学校と連携した、みかわ人権デーなどの事業を展開し、啓発活動を実施している。

第二節 幼児教育

昭和三二年度よりスタートした美川村幼児教育も、平成一六年度で四八年目を迎えようとしている。大勢でにぎわいを見せていた当初に比べると、幼児の減少により、六園あった保育園・幼稚園も、現在では仕七川保育園（平成一六年度には仕七川幼稚園となる）と美川幼稚園の二園となった。平成一四年度に、二籠保育園（平成四年度から休園）・黒藤川保育園（平成八年度から休園）・美川南保育園・美川西幼稚園の四園が統合し、美川幼稚園の誕生となった。

その間には、幼児の少人数化を補うために、村内交流保育を開始した。平成七年度までは、年間四回の実施、平成八年度からは、年間一回実施、平成一四年度からは、年間七回の交流保育を実施した。ま



みかわ人權デー

た、隣接園交流保育（村内の隣接した二園で実施）や、他園との交流保育（村内三園で実施）を年間七回から一四回実施し、大勢の友達とかかわって遊ぶ楽しさや社会性の育成、各園・地域の良さを知るなどのねらいのもと保育を進めてきた。

文部省により、平成一〇年に幼稚園教育要領の改訂が行われ、本村も、平成一二年度から、幼稚園教育は環境をとおして行うものであるということの基本理念においた教育活動が、新教育要領に基づいて実施された。また、平成一四年度からの完全学校週五日制を踏まえたうえで、ゆとりある教育活動を展開すると共に、生きる力の基礎を育成することを基本的なねらいとして行っている。

平成一五年度より三歳児保育が導入され、美川村幼児教育も益々活気がみなぎっているところである。

美川村の保育園・幼稚園は、幼児教育関係者が、月一回の幼児教育研修会をもち、各園の幼児理解に努めると共に、年間計画については、幼稚園教育要領に基づいた保・幼共通の教育課程を編成し、充実した保育が展開されていくよう努力している。

保育園・幼稚園長名

園名	年 度	園長氏名
黒藤川保育園	七	渡部 喜代隆
美川南保育園	八～一〇	落合 常章
	一一～一三	森 晴光
仕七川保育園	七～八	田中 寛
	九～一一	山田 眞昭
仕七川保育園	一二～一四	大 家 秀雄
	一五	土居 庸子

仕七川保育園は、平成一六年度より、幼稚園となる。

年度	黒藤川 保育園	美川南 保育園	仕七川 保育園	美川西 幼稚園	美川 幼稚園	計
七	三	六	一九	七		三五
八 (休園)		五	一四	一一		三〇
九 (南保へ 通園)		五	一〇	一一		二六
一〇		六	九	八		二三
一一		三	一二	七		二二
一二		三	一一	九		二三
一三		四	一三	八		二五
一四 (統合のた め閉園)			一四		一一	二五
一五 (統合のた め閉園)			一二		二二	三三
一六			一一		二〇	三〇

園児の推移

美川幼稚園	美川西幼稚園	井手窪 百合子 理
一四 一五	一〇 一一 一二	七 八 九
森川 等	山本 百合子	
大家 秀雄	森川 等	

年度	内容
八	ストックハウス設置
九	ビデオカメラ一台寄贈
一〇	園舎屋根塗装・コピー機設置
一一	園舎屋根修理・灯油保管庫ドア設置
一二	トイレ水洗化工事・シャワー室設置 コンピネーション遊具設置

(一) 施設・設備の充実状況



仕七川保育園

一 仕七川保育園(平成一六年度より幼稚園)

一四	オープンレンジ購入
一五	防犯ベル設置・パソコン導入（行政との交信）

(二) 主要行事

年度	内 容
七	上浮穴郡幼児教育研究会（事前研） 上浮穴郡幼児教育研究会（悪天候のため中止） 村交流保育年間一〇回となる
八	愛幼研松山支部研究会事前研会場（交流保育として） 愛幼研松山支部研究会会場（交流保育として）
一〇	幼児数が十名以下になり保育士一名
一一	幼児数が十名以上になり保育士二名 中学生との触れ合い活動二回
一二	他園（美川南保育園）との交流保育として年間三回実施
一三	保・幼・小・中合同研修会会場
一四	保育補助員一名増員（障害児の介助に当たる）
一五	三歳児保育開始

二 黒藤川保育園

主要行事

年度	内 容
七	幼児数一〇名以下のため保育士一名 二窠地区より園児一名タクシー通園 美川南保育園と隣接園交流保育として年間一四回実施 園児の減少により本年度を以って休園となる

三 美川南保育園

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
七	シロアリ駆除実施
八	ストックハウス設置・灯油置場設置
一〇	園舎屋根塗装・コピー機設置
一一	ぞうさんすべり台設置（屋外用）
一二	シャワー室設置

(二) 主要行事

年度	内 容
七	幼児数一〇名以下のため保育士一名 黒藤川保育園と隣接園交流保育として年間一四回実施
八	村交流保育年間一〇回となる
九	保・幼・小・中合同研修会会場園 村幼児教育研究会会場園
一〇	愛幼研松山支部研究会事前研（交流保育として。於…仕七川保育園） 愛幼研松山支部研究会会場園
一一	愛幼研松山支部研究会（交流保育として。於…仕七川保育園）
一二	美川西幼稚園と隣接園交流保育として年間七回実施
一三	他園（仕七川保育園、美川西幼稚園）との交流保育として年間七回実施

<p>統合に向けて美川西幼稚園との交流会をもつ 統合のため本年度を以って休園となる</p>

四 美川西幼稚園

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内	容
一〇	灯油保管庫設置	
一一	トイレ水洗化工事・シャワー室設置	
一二	コンビネーション遊具設置・壁紙張替工事 カーテン取替工事	

(二) 主要行事

年度	内	容
七	幼児数が一〇名以下になり教諭一名	
八	幼児数が一〇名以上になり教諭二名	
	地区別同和教育研究協議会事前研（村幼児教育研究会を兼ねる）	
	地区別同和教育研究協議会会場園	
	村交流保育年間一〇回となる	
	指導主事計画訪問	
九	愛幼研松山支部研究会事前研（交流保育として。於…仕七川保育園）	
一〇	愛幼研松山支部研究会事前研（交流保育として。於…仕七川保育園）	
一一	美川南保育園と隣接園交流保育として年間七回実施 保・幼・小・中合同研究会会場園	

一一	幼児数が一〇名以下になり教諭一名 臨時採用職員一名増員
一二	美川南保育園と隣接園交流保育として年間三回実施 幼小関連教育要請訪問及び指導訪問
一三	統合に向けて美川南保育園との交流会をもつ 統合のため本年度を以って休園となる

五 美川幼稚園



美川幼稚園

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内	容
一四	園舎屋根塗装・園舎内外壁塗装	
一五	砂場設置・手洗い台設置（屋外） 足洗場設置 防犯ベル設置・パソコン導入（行政との交信）	

(二) 主要行事

年度	内	容
一四	四園の統合により称号は美川幼稚園となる（旧美川南保育園園舎を使用）	
一五	保・幼・小・中合同研究会会場園 旧美川南保育園園舎から旧美川西幼稚園園舎に移転する 三歳児保育開始	

第二節 青年教育

過疎化の進む中で、急激な社会情勢の変化等により、青年団は大きな転換期を迎えている。

本村の青年団活動は、平成に入り、年々と団員が減少しているが、何とか歯止めを掛けようと、月に一・二度役員会を行い、内容のある活動・運営を行っている。

活動としては、スポーツ活動・各種イベント・バザー・奉仕活動など、青年団活動でしか味わえないもの、若い時にしかできない事等、色々模索しながらも、同じ美川の青年団員としての意識の統一を図っている。

平成一三年には女子が、平成一五年度には男子が、上浮穴郡スポーツ大会において、バレーボールで優勝し、念願の県大会出場を果たした。現在、青年団団員は四二名である。また、従来から小学校区ごとに開設されていた青年学級も、平成一二年七月には、青年学級振興法が廃止になったため名称を変え、公民館青年部として活動を行っている。各公民館青年部の活動内容としては、各地域の行事・イベント等で活動し貢献している。

歴代青年団長

年度	氏名	年度	氏名
平成七年度	栄代卓二	平成二二年度	西森健一
平成八年度	高山哲也	平成二三年度	松下昌司
平成九年度	猪野勉	平成二四年度	松下昌司
平成一〇年度	丸山克己	平成二五年度	倉橋広幸
平成一一年度	吉田知仁	平成二六年度	西森勉



若さあふれる盆踊り大会

◎ 成人式

「おとなになったことを自覚し、みずから生きぬこうとする青年を祝いはげます。」成人の日になんで、毎年一月二日に、成人式を実施している。

平成一六年は、美川村としては最後となる、第五五回の成人式であり、参加者も二三名中一九名と、近年では最多の出席率であった。

式典には、村理事者・村議会議長・村議会文教厚生委員長・教育委員・村婦人会及び村青年団役員等が列席し、激励や祝福のことばを贈り祝っている。

中学二年（二四歳）で実施する少年式とはうって変わって、心身ともに大きく成長した雄姿に接することは、毎年頭の楽しみである。

当日の概要は、次のとおりである。

一、式典

二、二〇歳の主張

該当者の進路、出身小学校区等を考慮し、三〜四名を選出し、現況や将来志向等を発表する。

三、記念撮影

四、討論会

参加者全員が連座となり、自己紹介・近況報告・将来構想・美川村に望むこと等について、なごやかに意見の交換をする。

五、アトラクション

村内に伝わる伝統芸能を年次的に披露する。

六、昼食会



美川村最後の成人式

第四節 婦人教育

豊かな地域の形成をめざし、地域婦人として、又、地域住民としての立場から、その時々々の地域課題解決のための学習と、実践活動を展開してきた。

長寿社会を迎え、男女共同参画社会の創造が、必要課題となつてい

る今日、婦人に対する期待は極めて大きい。
美川村婦人会では、潤いと生きがいのある地域づくりをめざして、その時々々の年代を、より魅力的に、充実したものにしていくための、婦人会活動を推進している。

本村の婦人会は、仕七川支部・美川西支部・美川南支部・黒藤川支部、の四支部で構成されていたが、平成一五年から、仕七川支部が活動を休止したこともあって、平成一五年現在で、会員数は七五名と、九年中で約二分の一まで減少した。しかし、活動においては、仕七川婦人学級の協力もあって、従来どおりの事業を実施している。

また、地域公民館単位に、婦人学級を開設して、婦人として・母親として・女性としての生きかたを学ぶ活動を展開している。

美川村婦人会長

年度	氏名	年度	氏名
六 七	篠崎 喜代子	一〇 一一	安宅 愛子
八	堀尾 キミ子	一二 一三	山村 緑
九	吉中 定代	一四	重岡 チヅ子

一 生活学校

美川村婦人会の中心的な活動として、多種多様な講座を開設している。

年六回程度の開校で、現在では、環境問題やボランティア活動に重点を置き、花いっぱい・クリーン活動、廃油石けんづくり、ボカシづくり、デイサービス施設訪問などの講座を開校し、毎年二〇〜三〇名が参加している。

この講座を通じて、家庭で出来る環境美化の意識、及び、リサイクルの重要性を学習し、実践している。



廃油石けんづくり

一一 ふれあい結婚式（会費制）

結婚式が華美になる中、結婚式改善のために、物心両面の浪費と無駄をなくし、結婚する当事者の幸せを中心に、よりよい家庭生活が営まれる基礎作りを目的に、会費制結婚式を挙行している。

昭和五七年、農村環境改善センターの建設により、当時の婦人会を中心に、会費制結婚式が提唱され、昭和五九年一〇月に、会費制結婚式の第一号が挙行された。

これまでに、農村環境改善センターにおいて、五〇組が挙行されたが、その内、二四組がふれあい結婚式（会費制結婚式）を挙行した。

現在では、挙式数も減少し、平成一三年一月を最後に、結婚式はと行われていない。

第五節 P T A

少子化・過疎化現象に伴い、年々、児童・生徒数が減少する中で、P T A会員もまた減少化傾向にある。

各小学校においても、休校や児童数の減少等が目立つようになり、閉校となった学校もあった。平成一二年には、黒藤川小学校が児童数の減少により休校となり、一四年度には、黒藤川小学校・二箇小学校・美川南小学校・美川西小学校が統合し、美川小学校が開校した。

毎週土曜日を休業とする、完全学校週五日制の実施、また、若者による残虐な事件等が起こるこの世の中、P T Aの果たす役割・課題は大きく増大している。

毎年七月には、村P T A研究大会を開催し、会員相互の研修を積み重ねている。県及び上浮穴郡のP T A研究大会へも参加して、研修を

重ねている。また、家庭・学校・地域社会が協力し合い、地域の実情に合ったP T A活動を行っている。

美川村P T A連合会会長

年度	氏名	年度	氏名
七	山本博典	一二	高岡勝一
八	十川章一	一三	岡林幸治
九	西山公彦	一四	伊藤重紀
一〇	佐伯和彦	一五	高岡春彦
一一	遠山豊	一六	坂本智寿雄

美川村小中学校P T A会長

年度	氏名	年度	氏名
七	成川勇夫	一二	山本博典
八	成川勇夫	一三	山本博典
九	土居昭平	一四	伊藤重紀
一〇	佐伯和彦	一五	山田道也
一一	松本和人	一六	水元良生
一二	松本綱義	一七	高岡勝一
一三	松本綱義	一八	石丸里志
一四	森田義幸	一九	水元政博
一五	仲川博文	二〇	高岡春彦
一六	西岡和夫	二一	井上貞晴
一七	十川章一	二二	佐ヶ山幹彦
一八	十川章一	二三	山田道也
一九	竹口和博	二四	岡林幸治
二〇	竹口和博	二五	岡林幸治

三 各種スポーツ大会の開催

(一) バレーボールリーグ大会

公民館主催のバレーボール大会では、年齢制限があるため、誰でもが参加できる大会をということで、昭和五〇年五月より、バレーボールリーグ大会を開催することとなった。

春、秋の年二回、夜間に開催しており、一時は、男子一〇チーム、女子六チームと、多数の参加チームを数えた。しかし、ここ数年で参加チームが減少し、女子の部の開催が危ぶまれていた。そんな中、平成一五年の秋の大会から、隣の面河村から参加があり、現在では、男子六チーム、女子五チームで熱戦を繰り広げている。

また、年間を通して、毎週、各公民館や青年団がバレーボール練習をしており、更なる技術向上を目指し、夜遅くまで汗を流している。



郡予選決勝風景

(二) 公民館ソフトボール大会

体育の日の記念行事として、昭和四四年から、村公民館主催で毎年開催されている。平成一二年からは、祝日に変更となり、体育の日の前日の日曜日に開催することとなった。

この大会は、広く村民の間にソフトボールを普及し、スポーツ精神の高揚と、村民の体力の向上を図り、生活を明るく豊かにし、村づくりの一助とする事を目的としている。

チーム編成については、各公民館ごとでチーム編成をし、試合中グランドでプレーできるのは一〇代、二〇代より三名、三〇代より三名、四〇代以上より三名と年齢を制限し、誰でも参加出来る大会運営をしており、村内各種スポーツ大会の中でも、最多の参加者を数えている。



村最大のスポーツイベント
公民館ソフトボール大会

(三) バドミントン大会

昭和五五年四月より、誰にでも手軽に楽しめるバドミントンを広く普及させ、家族ぐるみのスポーツ化を目指すことを主旨とし開催している。

近年では、参加者の減少が見られ、以前の盛り上がりとは比べるとやや低調なものであるが、平成一三年からは、中学生の参加も呼びかけ、現在では三〇名程の参加である。少数の参加ではあるが、白熱した試合が展開されている。

(四) クロツケ大会

昭和五五年ごろから、村内各地域でクロツケが盛んに行われるようになり、昭和五七年に、第一回クロツケ大会が開催された。

日々の練習の積み重ねの甲斐あって、郡内でも常に上位を狙える実力をつけてきている。中でも、仕七川・林チームは、郡大会・松山大会の各予選を六年連続で突破し、県大会に出場している。

(五) レクリエーションバレーボール大会

「バレーボールの魅力をより多くの人に、心ゆくまで味わってほしい」という願いを込めて、平成五年春より、愛好者対象の「交流大会」を、秋には公民館対抗の「レクリエーションバレーボール大会」を夜間に開催している。

この競技は、高度な技術を必要としないソフトバレーボールを使用し、初心者・年少者・高齢者向けとして、いつでも、どこでも、誰でもプレーを楽しむことができる。

ここ数年で、村内のレベルも上がっており、大会では白熱した好ゲームが展開されている。

(六) 卓球大会

平成七年度で二五回を数える卓球大会も、冬季の開催にも拘わらず、参加者数が年々増加しており、ソフトボール・バレーボールと並んで、当村の人気スポーツとなっている。

参加者のレベルに合わせて、出場ランクを分けているため、初心者でも楽しくプレーできるように設定している。

バドミントン大会と同様に、中学生の参加も認め、また、年間を通して、夜間に愛好者が集い、スポーツを通して交流を深めている。



熱戦を展開した村卓球大会

四 体育指導委員

体育指導委員は、各地域公民館の推薦を受け、教育委員会が委嘱することとなっている。

任期は二年間となっているが、一〇年以上の経験をもつベテラン指導委員もあり、各種スポーツ大会における審判はもとより、大会の運営・技術指導等にも、大きく貢献している。

また、地域におけるスポーツの振興や、地域行事の活性化についても、大きく貢献している。

美川村体育指導委員

年度	氏名	年度	氏名
五七〇平七	中田龍明	九〇一四	正岡博文
五九〇平八	伊藤高行	九〇九	中岡正行
六一〇一〇	伊藤重紀	九〇九	栄代卓二
平四〇一〇	佐伯和彦	一一〇	森田義幸
四〇	松本和人	一一〇	石元篤也
六〇八	阪本雅彦	一三〇一四	中田龍明
六〇八	高山哲也	一五〇	谷脇文雄
八〇一二	左京健	一五〇	平野勝規

五 少年スキークラブ

四国随一を誇る美川スキー場から、国体選手を養成しようと、昭和四三年に、村内の小中学生を対象として、少年スキークラブが結成された。

近年の暖冬により、活動回数も限られる中で、父母の会のバックアップもあり、活動を続けているが、まだ成果をだすまでには至っていない。

第四章 文化

第一節 文化財

文化財は、我々の歴史・文化等の正しい理解のため、欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存活用が適切に行われるよう、文化財保護委員は、地道な活動を続けている。

また、上浮穴郡文化財保護委員連絡協議会の活動に参加し、研修会等を通じて、文化財保護委員の資質の向上に努めている。



国指定史跡「上黒岩岩陰遺跡」

指定文化財一覧表

区分	種別	名称	員数	所在地	所有者	指定年月日
国	建造物	旧山中家住宅	一棟	上黒岩	美川村	昭和四五年六月一七日
国	史跡	上黒岩岩陰遺跡	一括	上黒岩	美川村	昭和四六年五月二七日
国	名勝	岩屋		七鳥	岩屋寺	昭和一九年一月七日
県	名勝	御三戸嶽		仕出	美川村	昭和四六年四月六日
村	建造物	岩屋寺仁王門	一棟	七鳥	岩屋寺	昭和三七年一〇月一日
村	彫刻	阿弥陀如来像	一躯	黒藤川	正泉寺	昭和三七年一〇月一日
村	彫刻	弥陀三尊像	三躯	有枝	有枝	昭和三七年一〇月一日
村	工芸	高膳	一对	東川	神崎	昭和三七年一〇月一日
村	石造美術	里塚石	四本	有枝・七鳥 黒藤川	美川村	昭和四八年二月二一日
村	天然記念物	双生矢竹		黒藤川	美川村	昭和四八年二月二一日
村	史跡	東川村庄屋旧梅木 家屋敷跡(石垣)		東川	片岡	昭和五八年一月二〇日
村	史跡	宝篋印塔	一基	大川	利道	昭和五八年一月二〇日
村	庭園	土居邸庭園		大川	大川	昭和五八年一月二〇日
村	天然記念物	ナガエミクリ		沢渡	土居	昭和五八年一月二〇日
村	天然記念物	ドブシジミ		沢渡	美川村	平成一五年五月一日
村	天然記念物	ジュンサイ		沢渡	美川村	平成一五年五月一日

年度	氏名
四九〇	竹口 渉
四九〇	大西 善和
五三〇 七	伊藤 孟寛
五三〇	光田 有
五九〇	西口 武志
六〇一 一	大野 正美
八〇	土居 一成
一二〇	岩市 幸尊

第二節 文化活動

文化は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらす。人生を豊かにするとともに、豊かな人間性を涵養し、創造力をはぐくむものである。

また、他者に共感する心を通じて、人と人とを結び付け、相互に理解し、尊重し合う土壌を提供するものであり、人間が協働し、共生する社会の基盤となるものである。

文化の意義をかんがみると、すべての人々が、真にゆとりと潤いの実感できる、心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものであり、この意味において、文化芸術の振興を図っていくことは、重要なことである。

本村では、昭和五五年六月三〇日に、美川村文化協会が発足して以来、文化協会を中心として、郷土芸能保存グループ、各種愛好者などの同好会が、それぞれ活発に活動を続けている。



村文化祭



美川縄文太鼓

美川村文化協会長

年 度	氏 名
五 〇 一	片岡 正幸
一〇	山田 壽夫
一一	松岡 香

一月には、村主催の「みかわ川まつり」や、二月には、文化協会主催による「文化祭」が毎年行われており、芸能発表や作品展示などを行っている。その他にも、俳句大会や、囲碁将棋大会も実施している。上浮穴郡吟詠剣詩舞発表会へも、村内吟詠愛好者が参加し、発表及び交流活動を行っている。

平成元年六月二八日に結成された、美川縄文太鼓保存会は、村内の各種イベントはもとより、村外でのイベント等でも数多く公演しており、美川村の代表芸能として定着している。

